

★ 帝国主義—社会帝国主義を世界革命戦争で打倒し、世界プロ独を樹立せよ！
 ★ 世界同時革命勝利！
 ★ 世界党—世界赤軍—世界革命戦線建設！

赤軍

第12号

1974年
11月20日
定価150円

共産主義者同盟
赤軍派日本委員会
宣伝局

地下細胞建設と持久戦IIゲリラ戦闘を 堅持し、ねばり強い地下組織戦を 勝利し抜け！

① 党建設—戦争拡大と党派再編

革命党建設の日本革命勢力に与る最大の任務は、今日の全争の局面での階級的闘いの重層的拡大の中で、他方その党の萌芽たる地下軍事組織の戦闘—戦争体制の持続化の中で、党建設の秒読み段階に到達している。

この日本に於けるプロ独—社会主義革命の指導部建設の闘いの中で、我々自身の赤軍派の党的再建と、そしてそれをテコとする連結した形でのプロント—共産主義者同盟の再建は、いずれもこの革命党建設の決定的重要環を有するであろう。この闘いの過程で戦後日本共産主義運動のジグザグ分解—六全協、新左翼—毛派そして労働運動個別運動と地下戦闘団は、強固で組織的広範性多様性を有した革命党の建設の水路の中で將に単一組織的系統化されるであろう。

同志諸君！ 闘う兄弟友人達、我が同胞たち！

② 我々は、世界革命戦争

争戦士文世光同志の赤色の地帯を断固支持防衛し、その赤色テロルの継承化と組織的止揚の闘い—謀略の中で逆の意味しか表現されていなく、この日本に於ける世界的連結をもつてしての革命党建設の闘いは部分部分に於いて表現されつつある。我々の敵は単に日本の政治警察—公安のテカ共のみではなく、より組織性秘密性直接的対決であるというこののみを公表しておく。

☆日本の革命党建設は確実に開始され成長している。我々は、すでに10・21闘争に於いて明らかにした。①我々はアラブ赤軍の国際ゲリラ闘争—軍事行動の地帯と戦闘—戦争体制を結合し、敵—日本共同軍事行動を勝利する。同時に、アラブ赤軍の提起する「宣言」等での世界戦略との全く一致を確認し、我々自身の戦争陣型でもってその実体的確立と、その中で世界党建設へ向けた党内—党派闘争を貫徹する。その逆

略のもとで貫徹し勝利する。④我々は、70年代階級闘争を勝利する組織陣型—革命戦争統一戦線—革命党—プロ独社会主義革命の闘い—基礎は、もとよりプロレタリアート—大工場基幹産業の労働者—組織化であり、深刻化する帝国主義の危機—反革命—再編—インフラ下不況—スタグフ化の全局的危機のプロへの転化としての強収奪—貧困化—黄金カット—首切り—に対して、プロレタリア—被抑圧人民の反帝諸闘争—解放闘争—自身の階級の闘いをそれ自身の経済闘争—民主主義闘争—民主主義闘争の中で、プロ独樹立—社会主義建設—向けて、すなわち賃金奴隸制、経済的従属を断ち切る帝国主義的打倒—私的所有の廃絶—資本制の止揚としての社会主義革命を勝利する事であり、そしてその組織的表現は、大工場プロレタリアートの中にどれ程の地下細胞—党細胞が、い

の環とも非合法—軍事組織の党組織の萌芽たる地下体制—戦闘体制の確立を中軸として確立し、その発展拡大をまずなにより、我々自身が革命戦士—赤軍兵士としての任務—革命戦争—建軍武装闘争を持久的に拡大発展させ、目に見えぬ赤い—革命戦争統一戦線—革命党—プロ独社会主義革命の闘い—基礎は、もとよりプロレタリアート—大工場基幹産業の労働者—組織化であり、深刻化する帝国主義の危機—反革命—再編—インフラ下不況—スタグフ化の全局的危機のプロへの転化としての強収奪—貧困化—黄金カット—首切り—に対して、プロレタリア—被抑圧人民の反帝諸闘争—解放闘争—自身の階級の闘いをそれ自身の経済闘争—民主主義闘争—民主主義闘争の中で、プロ独樹立—社会主義建設—向けて、すなわち賃金奴隸制、経済的従属を断ち切る帝国主義的打倒—私的所有の廃絶—資本制の止揚としての社会主義革命を勝利する事であり、そしてその組織的表現は、大工場プロレタリアートの中にどれ程の地下細胞—党細胞が、い

放闘争一般のみ、全面讚美し、それでの闘いから階級闘争具体の政治的基準を求めるのは明確に誤っている。我々がプロレタリアートの階級闘争に依拠しその発展と政治闘争としての指導を第一の我々の任務として確認するのであり、種々の社会的闘争はそれを鮮明化させる環であり、決してその逆ではない。我々はこの事を当然の前提事項として確認しているが故にあへて今日まで多くは言及しなかつたが、今日の戦闘の内部に、この事を曖昧にする逆転した傾向が発生している時、あへてこの事を再度確認したのである。

統一として一挙的のファシズム体制—対外膨脹—反革命へと移行できぬ事、その侵略—抑圧の矛盾開花を不可避の国内収奪—インフラ強収奪—差別—分断攻撃—民族排外主義の育成、帝国主義労働運動の強化としてその一時的延命を計りつつあり同時に、朝鮮侵略—地政策的直接展開—朝鮮南部朴カイライ政権の軍事強化—ファシズムの強化を計りつつあり、③日帝プロレタリア—被抑圧人民の反帝諸闘争—解放闘争—自身の階級の闘いをそれ自身の経済闘争—民主主義闘争—民主主義闘争の中で、プロ独樹立—社会主義建設—向けて、すなわち賃金奴隸制、経済的従属を断ち切る帝国主義的打倒—私的所有の廃絶—資本制の止揚としての社会主義革命を勝利する事であり、そしてその組織的表現は、大工場プロレタリアートの中にどれ程の地下細胞—党細胞が、い

革命戦争の勝利の環は、持久的な 労働者地下細胞建設の組織建設 闘争の勝利であり、 軍事行動—地下ゲリラ戦—大衆 武装闘争の複合的戦闘の勝利であり、 プロ独—戦争派の党派闘争の 勝利である

共産主義者同盟赤軍派日本委員会
中央軍事組織部（中央軍）

今日段階にあってこの革命党建設と全運動全歴史の系統化—当然にもその党が地下秘密組織—非合法党である

①我々はアラブ赤軍の国際ゲリラ闘争—軍事行動の地帯と戦闘—戦争体制を結合し、敵—日本共同軍事行動を勝利する。同時に、アラブ赤軍の提起する「宣言」等での世界戦略との全く一致を確認し、我々自身の戦争陣型でもってその実体的確立と、その中で世界党建設へ向けた党内—党派闘争を貫徹する。その逆

②我々は、世界革命戦争争戦士文世光同志の赤色の地帯を断固支持防衛し、その赤色テロルの継承化と組織的止揚の闘い—謀略の中で逆の意味しか表現されていなく、この日本に於ける世界的連結をもつてしての革命党建設の闘いは部分部分に於いて表現されつつある。我々の敵は単に日本の政治警察—公安のテカ共のみではなく、より組織性秘密性直接的対決であるというこののみを公表しておく。

☆日本の革命党建設は確実に開始され成長している。我々は、すでに10・21闘争に於いて明らかにした。①我々はアラブ赤軍の国際ゲリラ闘争—軍事行動の地帯と戦闘—戦争体制を結合し、敵—日本共同軍事行動を勝利する。同時に、アラブ赤軍の提起する「宣言」等での世界戦略との全く一致を確認し、我々自身の戦争陣型でもってその実体的確立と、その中で世界党建設へ向けた党内—党派闘争を貫徹する。その逆

の環とも非合法—軍事組織の党組織の萌芽たる地下体制—戦闘体制の確立を中軸として確立し、その発展拡大をまずなにより、我々自身が革命戦士—赤軍兵士としての任務—革命戦争—建軍武装闘争を持久的に拡大発展させ、目に見えぬ赤い—革命戦争統一戦線—革命党—プロ独社会主義革命の闘い—基礎は、もとよりプロレタリアート—大工場基幹産業の労働者—組織化であり、深刻化する帝国主義の危機—反革命—再編—インフラ下不況—スタグフ化の全局的危機のプロへの転化としての強収奪—貧困化—黄金カット—首切り—に対して、プロレタリア—被抑圧人民の反帝諸闘争—解放闘争—自身の階級の闘いをそれ自身の経済闘争—民主主義闘争—民主主義闘争の中で、プロ独樹立—社会主義建設—向けて、すなわち賃金奴隸制、経済的従属を断ち切る帝国主義的打倒—私的所有の廃絶—資本制の止揚としての社会主義革命を勝利する事であり、そしてその組織的表現は、大工場プロレタリアートの中にどれ程の地下細胞—党細胞が、い

の環とも非合法—軍事組織の党組織の萌芽たる地下体制—戦闘体制の確立を中軸として確立し、その発展拡大をまずなにより、我々自身が革命戦士—赤軍兵士としての任務—革命戦争—建軍武装闘争を持久的に拡大発展させ、目に見えぬ赤い—革命戦争統一戦線—革命党—プロ独社会主義革命の闘い—基礎は、もとよりプロレタリアート—大工場基幹産業の労働者—組織化であり、深刻化する帝国主義の危機—反革命—再編—インフラ下不況—スタグフ化の全局的危機のプロへの転化としての強収奪—貧困化—黄金カット—首切り—に対して、プロレタリア—被抑圧人民の反帝諸闘争—解放闘争—自身の階級の闘いをそれ自身の経済闘争—民主主義闘争—民主主義闘争の中で、プロ独樹立—社会主義建設—向けて、すなわち賃金奴隸制、経済的従属を断ち切る帝国主義的打倒—私的所有の廃絶—資本制の止揚としての社会主義革命を勝利する事であり、そしてその組織的表現は、大工場プロレタリアートの中にどれ程の地下細胞—党細胞が、い

の環とも非合法—軍事組織の党組織の萌芽たる地下体制—戦闘体制の確立を中軸として確立し、その発展拡大をまずなにより、我々自身が革命戦士—赤軍兵士としての任務—革命戦争—建軍武装闘争を持久的に拡大発展させ、目に見えぬ赤い—革命戦争統一戦線—革命党—プロ独社会主義革命の闘い—基礎は、もとよりプロレタリアート—大工場基幹産業の労働者—組織化であり、深刻化する帝国主義の危機—反革命—再編—インフラ下不況—スタグフ化の全局的危機のプロへの転化としての強収奪—貧困化—黄金カット—首切り—に対して、プロレタリア—被抑圧人民の反帝諸闘争—解放闘争—自身の階級の闘いをそれ自身の経済闘争—民主主義闘争—民主主義闘争の中で、プロ独樹立—社会主義建設—向けて、すなわち賃金奴隸制、経済的従属を断ち切る帝国主義的打倒—私的所有の廃絶—資本制の止揚としての社会主義革命を勝利する事であり、そしてその組織的表現は、大工場プロレタリアートの中にどれ程の地下細胞—党細胞が、い

の環とも非合法—軍事組織の党組織の萌芽たる地下体制—戦闘体制の確立を中軸として確立し、その発展拡大をまずなにより、我々自身が革命戦士—赤軍兵士としての任務—革命戦争—建軍武装闘争を持久的に拡大発展させ、目に見えぬ赤い—革命戦争統一戦線—革命党—プロ独社会主義革命の闘い—基礎は、もとよりプロレタリアート—大工場基幹産業の労働者—組織化であり、深刻化する帝国主義の危機—反革命—再編—インフラ下不況—スタグフ化の全局的危機のプロへの転化としての強収奪—貧困化—黄金カット—首切り—に対して、プロレタリア—被抑圧人民の反帝諸闘争—解放闘争—自身の階級の闘いをそれ自身の経済闘争—民主主義闘争—民主主義闘争の中で、プロ独樹立—社会主義建設—向けて、すなわち賃金奴隸制、経済的従属を断ち切る帝国主義的打倒—私的所有の廃絶—資本制の止揚としての社会主義革命を勝利する事であり、そしてその組織的表現は、大工場プロレタリアートの中にどれ程の地下細胞—党細胞が、い

戦略スローガン

- ◎ 万国の労働者・被抑圧人民は団結し、世界革命戦争—世界プロレタリア独—社会主義・共産主義建設の社会主義革命に勝利せよ！
- ◎ 世界革命戦争勝利！
- ◎ 帝国主義—社会帝国主義を世界革命戦争で打倒し、世界プロレタリア独裁を樹立せよ！
- ◎ 現代日和見主義—現代修正主義を粉砕し、世界党—世界赤軍—世界革命戦線を建設せよ！
- ◎ 日本プロレタリアート人民は、第三世界解放闘争と世界革命戦争で結合し、帝国主義と社会帝国主義の侵略・反革命戦争を粉砕せよ！
- ◎ 侵略・抑圧・反革命—差別分断攻撃粉砕！
- ◎ 安保—NATO—ワルシャワ条約—国際反革命同盟粉砕！
- ◎ 米帝国主義の対日反革命抑圧粉砕！
- ◎ 日本帝国主義打倒！
- ◎ ソ連社会帝国主義の反革命粉砕！
- ◎ 社帝・社民の反革命策動を粉砕し、プロレタリア独裁の権力機関=世界革命戦争の闘争機関=臨時革命政府(革命戦線政府)を樹立せよ！
- ◎ 非合法中央集権一職業革命家の党、軍事組織—労働者地下細胞の党建設！
- ◎ 党の武装を核心とする建軍—武装闘争堅持！
- ◎ 労働者を基盤とする被抑圧人民の統一戦線建設！
- ◎ プロレタリア革命軍=赤軍建設！
- ◎ 社会主義革命戦争—全人民武装蜂起を闘へ取る正規の攻囲建設！

差別判決を打ち破り、石川氏を即時奪還せよ！

許せざる暴挙「無期懲役」をはねのけ、切の融和主義・敗北主義を粉砕し、狭山闘争を更に発展させよ！

10月31日、日帝—寺尾はまったく許し難い暴挙「差別判決」—「有罪無期懲役」を下した。実に多くの当然たる予想を裏切って、寺尾はこの有罪判決を単に石川氏に対してのみでなく、三〇〇万部落大衆、部落解放闘争—狭山闘争を闘う全ての人々に対し、しかり部落解放闘争そのものに対して、将に日帝の最後のアガキの挑戦として投げつけてきたのである。将に政治的階級的判断としての差別判決である。

10月連続闘争を頂点とする、将に全人民的政治闘争としての大高揚を迎えた狭山闘争に対する階級的恐怖と憎悪に満ち満ちる。

「狭山公判」の攻防の環はこの一点にあったのであり、そして判決は「灰色の無罪」での一見帝国主義自体の妥協ともとれる中で、狭山闘争の自然消滅と融和主義の育成を追求する事ではなく、「有罪」という一歩の後退をも取れないという最後の階級的抵抗—アガキを、日帝—寺尾のなみなみなめ決意でもって正面からの反撃に撃って出たのである。

「狭山闘争を粉砕せよ！」今や日帝のスローガンはこの様に高らかに掲げられたのだ。

しかし、この日帝のアガキは将に怒りに燃え、勝利の確信に満ちている

部大衆の更なる狭山闘争への決意を軸とする、全める階層を包摂したところの闘争自体の圧倒的拡大の解答を、その判決

日から即刻迎えている。望を一時的に与えはした。怒り闘いの決意は満ち満ちているのである。望を、しかしこの差別を断じて許さず、確実に打ち破る圧倒的声と力はこの石川氏、御両親に深い失

10月31日の暴挙は確かに破る圧倒的声と力はこの石川氏、御両親に深い失

10月31日を確実に勝利の勝利せよ！

連載資料 (第二回)

同盟再建に向けての苦闘 二年間の各分派の闘いの軌跡

解説

この釜ヶ崎地区委員会の文章は、本年四月、「メーデー闘争」に関しての釜ヶ崎分派の内部論争に対して同委員会の基本方針として提出されたものである。今年のメーデーに関しては、その方針についての討議以前に、二年余にわたる釜ヶ崎—釜ヶ崎での運動総体に対する総括と、それを土台とした運動総体の方向が要求されていた。この内実を巡って釜ヶ崎内部での論争も深刻な闘いを要求され、大別すると「メーデー」をなんとしても釜ヶ崎の運動と取り組むべきだとする「メーデー派」と、単なるスケージュールの運動と組合主義的闘争スタイルに揮毫する事を拒否し、この困難な時期こそ運動の中で総括を確立すべきだとする「総括派」に分かれその論争が展開されてきた。釜ヶ崎地区委員はこの二者に対して第三の立場をこの文章の提出をもって計ろうとしたものである。

しかし、釜ヶ崎地区委員自身の組織的解体状況下においてこの提起は、前回の「解散宣言」と同じく、その当時にあっては単なる理論的位置付けと純粹論理上の方針に留まらざるを得ないというそりをまぬがれ得ないであろう。

メーデーと総括 第一次釜共闘白鳥の歌

一九七四年四月末 共産同赤軍派釜ヶ崎地区委員会

(1)「メーデーか総括か」という一見くだらなくすなわち何をいまさらとみえる論争は、それだけに一層、現在の釜共闘、本質的には寄せ場における革命運動のしんどさを表現している。

(2)越冬闘争は釜共闘の分

(3)メーデーに釜の労働者セクトに対して、総括一

(4)「総括を」そだ。我々は敗北を情念の最深

(5)しかし、我々は「総括派」に反対した。そして今も徹底して「総括派」と戦わねばならないと考えている。それは総括を現実の「人」建設—革命運動の闘いから召還した地帯で提出することへの反対として表面化しているが、根本は、彼らの釜ナロードニズムと排外主義、そして暴動、ゲリラ、合法闘争を並列する空論的戦術思想、権力問題における政治闘争の観点の欠落に対する批判として欠落している。しかしそれは釜ヶ崎地区委員の総括と路線をめぐる内的戦いと共に存在したのであり、別箇に語ることはできない。

(6)越冬をめぐる経済状況と敵階級の路線は以下であったらう。石油危機とインフレに対する総需要抑制という資本主義の危機は冬場と結合することによって寄せ場労働者の生活危機を法的なものにしていった。一方武装制圧と破防体制で寄場反革命支配を強化している敵階級は種々な近代化政策の一環として、五〇〇〇万円の暴動対策費と軍事警察体制という「アメと

部にかかえこみ統括している「労働者戦士」のみ発する声として、それを断固として支持する。釜ヶ崎の昂揚のりうつりのことびつき、敗北過程の中で生き生きとした寄場反乱に、労働者政治という名で「革命」をくさらせ、経済主義的政治のみはびこらせる部分に対する、我々の声は、やはり第一に「総括を」ということである。

ムチ」でもって対応した。この今冬はあった。

(7) 釜共闘の二つの潮流は内部で対立しながら、それぞれに破産していった。経済主義者は行政闘争とテント村闘争を現実的

に「職よこせ」という戦いを政治暴動、かつ抗日

「仕事がない」という釜ヶ崎の越冬局面は、季節

第三に、この行政闘争をハムと坐りこける代り

このような状況を背景にした職よこせ、失業保険

第二に、このような行政闘争のスローガンは東京

「(8) 越冬闘争における第二の潮流。72年反乱を戦

間であつたかわされたが、未だ組織的に総括討論に

その第一歩を踏み出した。しかし、それは72年釜ヶ

(10) 釜ヶ崎地区区委は釜ヶ崎を戦闘性のみで領導

釜ヶ崎を戦闘性のみで領導し、以降新しい高度な暴力

市民秩序からの疎外としてある。それは閉塞から

釜ヶ崎における組織された労働運動の強固な戦線

釜ヶ崎労働者の生活、労働条件、暴動を契機に

釜ヶ崎における組織された労働運動の強固な戦線

そして、我々は総括が現実の階級闘争の中で打ち

釜ヶ崎労働者の頭蓋に依拠して、我々のメーデー

釜ヶ崎労働者の頭蓋に依拠して、我々のメーデー

フオード来日「韓」阻止の闘い開始さる

11・18フオード来日阻止闘争は全国現地で貫

同志近藤奪還をバネに 更なる反弾圧闘争の前進を!

3年余の不法長期拘留を弾固糾弾する!

— 反弾圧闘争と我々 —

同志、友人諸君、階級制の同胞諸氏、兄弟連、世界労働者階級の解放に向けて、世界資本主義陣営に對し、世界労働者階級、勤労人民による総力戦へと世界革命戦争を闘闘い抜いていける世界革命戦争を闘う熱烈なる連帯の挨拶を送りたい。

現在、我が同盟を始めとした、革命的戦士達は、突入した世界の大乱の中に無敵と反動化を満天下にバクろしながら、その原因を状況の変動に求め、責任を回避する腐敗分子、腐敗潮流と闘い、全同盟員を思い切り立ち上げ、マルクス主義思想・政治による全党的な分析・政治的実践・検証へと歩を進めており、現状に對して基本的なプロレタリア革命戦略を打ち出し、具体的かつ緻密な進路を指示して実践に解決する事に全精力を集中している。

資本の世界支配以降、世界の独立を益々強めてくる現在、ロシア革命による人民国家の出現と被抑圧民族の世界的規模での革命的決起の大激動は、繰り返されている資本主義的取得と高度な生産力の矛盾の大爆発が、

同志、友人諸君、階級制の同胞諸氏、兄弟連、世界労働者階級の解放に向けて、世界資本主義陣営に對し、世界労働者階級、勤労人民による総力戦へと世界革命戦争を闘闘い抜いていける世界革命戦争を闘う熱烈なる連帯の挨拶を送りたい。

現在、我が同盟を始めとした、革命的戦士達は、突入した世界の大乱の中に無敵と反動化を満天下にバクろしながら、その原因を状況の変動に求め、責任を回避する腐敗分子、腐敗潮流と闘い、全同盟員を思い切り立ち上げ、マルクス主義思想・政治による全党的な分析・政治的実践・検証へと歩を進めており、現状に對して基本的なプロレタリア革命戦略を打ち出し、具体的かつ緻密な進路を指示して実践に解決する事に全精力を集中している。

資本の世界支配以降、世界の独立を益々強めてくる現在、ロシア革命による人民国家の出現と被抑圧民族の世界的規模での革命的決起の大激動は、繰り返されている資本主義的取得と高度な生産力の矛盾の大爆発が、

同志、友人諸君、階級制の同胞諸氏、兄弟連、世界労働者階級の解放に向けて、世界資本主義陣営に對し、世界労働者階級、勤労人民による総力戦へと世界革命戦争を闘闘い抜いていける世界革命戦争を闘う熱烈なる連帯の挨拶を送りたい。

同志、友人諸君、階級制の同胞諸氏、兄弟連、世界労働者階級の解放に向けて、世界資本主義陣営に對し、世界労働者階級、勤労人民による総力戦へと世界革命戦争を闘闘い抜いていける世界革命戦争を闘う熱烈なる連帯の挨拶を送りたい。

現在、我が同盟を始めとした、革命的戦士達は、突入した世界の大乱の中に無敵と反動化を満天下にバクろしながら、その原因を状況の変動に求め、責任を回避する腐敗分子、腐敗潮流と闘い、全同盟員を思い切り立ち上げ、マルクス主義思想・政治による全党的な分析・政治的実践・検証へと歩を進めており、現状に對して基本的なプロレタリア革命戦略を打ち出し、具体的かつ緻密な進路を指示して実践に解決する事に全精力を集中している。

資本の世界支配以降、世界の独立を益々強めてくる現在、ロシア革命による人民国家の出現と被抑圧民族の世界的規模での革命的決起の大激動は、繰り返されている資本主義的取得と高度な生産力の矛盾の大爆発が、

同志、友人諸君、階級制の同胞諸氏、兄弟連、世界労働者階級の解放に向けて、世界資本主義陣営に對し、世界労働者階級、勤労人民による総力戦へと世界革命戦争を闘闘い抜いていける世界革命戦争を闘う熱烈なる連帯の挨拶を送りたい。

現在、我が同盟を始めとした、革命的戦士達は、突入した世界の大乱の中に無敵と反動化を満天下にバクろしながら、その原因を状況の変動に求め、責任を回避する腐敗分子、腐敗潮流と闘い、全同盟員を思い切り立ち上げ、マルクス主義思想・政治による全党的な分析・政治的実践・検証へと歩を進めており、現状に對して基本的なプロレタリア革命戦略を打ち出し、具体的かつ緻密な進路を指示して実践に解決する事に全精力を集中している。

資本の世界支配以降、世界の独立を益々強めてくる現在、ロシア革命による人民国家の出現と被抑圧民族の世界的規模での革命的決起の大激動は、繰り返されている資本主義的取得と高度な生産力の矛盾の大爆発が、

同志、友人諸君、階級制の同胞諸氏、兄弟連、世界労働者階級の解放に向けて、世界資本主義陣営に對し、世界労働者階級、勤労人民による総力戦へと世界革命戦争を闘闘い抜いていける世界革命戦争を闘う熱烈なる連帯の挨拶を送りたい。

同志、友人諸君、階級制の同胞諸氏、兄弟連、世界労働者階級の解放に向けて、世界資本主義陣営に對し、世界労働者階級、勤労人民による総力戦へと世界革命戦争を闘闘い抜いていける世界革命戦争を闘う熱烈なる連帯の挨拶を送りたい。

現在、我が同盟を始めとした、革命的戦士達は、突入した世界の大乱の中に無敵と反動化を満天下にバクろしながら、その原因を状況の変動に求め、責任を回避する腐敗分子、腐敗潮流と闘い、全同盟員を思い切り立ち上げ、マルクス主義思想・政治による全党的な分析・政治的実践・検証へと歩を進めており、現状に對して基本的なプロレタリア革命戦略を打ち出し、具体的かつ緻密な進路を指示して実践に解決する事に全精力を集中している。

資本の世界支配以降、世界の独立を益々強めてくる現在、ロシア革命による人民国家の出現と被抑圧民族の世界的規模での革命的決起の大激動は、繰り返されている資本主義的取得と高度な生産力の矛盾の大爆発が、

同志、友人諸君、階級制の同胞諸氏、兄弟連、世界労働者階級の解放に向けて、世界資本主義陣営に對し、世界労働者階級、勤労人民による総力戦へと世界革命戦争を闘闘い抜いていける世界革命戦争を闘う熱烈なる連帯の挨拶を送りたい。

現在、我が同盟を始めとした、革命的戦士達は、突入した世界の大乱の中に無敵と反動化を満天下にバクろしながら、その原因を状況の変動に求め、責任を回避する腐敗分子、腐敗潮流と闘い、全同盟員を思い切り立ち上げ、マルクス主義思想・政治による全党的な分析・政治的実践・検証へと歩を進めており、現状に對して基本的なプロレタリア革命戦略を打ち出し、具体的かつ緻密な進路を指示して実践に解決する事に全精力を集中している。

資本の世界支配以降、世界の独立を益々強めてくる現在、ロシア革命による人民国家の出現と被抑圧民族の世界的規模での革命的決起の大激動は、繰り返されている資本主義的取得と高度な生産力の矛盾の大爆発が、

同志、友人諸君、階級制の同胞諸氏、兄弟連、世界労働者階級の解放に向けて、世界資本主義陣営に對し、世界労働者階級、勤労人民による総力戦へと世界革命戦争を闘闘い抜いていける世界革命戦争を闘う熱烈なる連帯の挨拶を送りたい。

綱領—路線確立の深化に向けて(第四回)

小ブル急進主義の社会的基盤

小ブル急進主義の社会的基盤

- 第一部 今日に於ける小ブル急進主義の発生根拠
- 第一章 小ブル急進主義の社会的背景
- 第二章 巨大独占のブルジョア支配との連関性
- 第三章 「人的能力開発」に於ける階級支配の強化

第二部 小ブル急進主義の階級的基盤

- 第一章 ブルジョワ独占との階級的連関
- 第二章 マルクス主義の小ブル的カリカチュア
- 第三章 「反スターリン主義運動の発展的止揚のために」

- 第一節 黒田の「資本主義」批判の矛盾
- 第二節 黒田「疎外論」の本質

- 第三節 黒田に於ける「労働力商品化論」—主体性の根拠の破壊
- 第四節 黒田の反唯物論—観念論としての誤謬

「いまや、われわれは、生以来、もっとも静かなる宣言の問い直しであり、協同一致して活動することとをまなんだ。このこととをゆざされたその日を、もっとも特徴付けたのは、革命が証明している。われわれは、すべてのもの、リポートを世界革命にまで導く、大衆組織の力をもっている。ロシアで、いますぐわれわれは、プロレタリア社会主義国家の建設に事しななければならぬ。世界社会主義革命の才(注1)冬官の攻撃の銃声を聞きながら、こう高らかに宣言した、その55年後の10月、日本でこのレーニン言葉に忠実であらんとする人々を色濃くおぼえていたのは、明らかな沈滞と後退のヴェールだ。『国際反戦デー』誕に、このレーニンの輝けずとして批判した。

「マルクス主義の正統的継承者」と認するドイツ市民党を主軸とする「マルクス」の言葉をもっとも多く使って、マルクスの闘いからもっともかけ離れた闘いを展開する者達と、同じ様に映るに異ならないからである。「レーニン」は「マルクス主義と蜂起」の中で、皆が混同したわけがわからなくなる時を蜂起の時期設定の一要素として起るが、それは68年のASPAO闘争、防衛庁闘争と日本の最良の革命分子であったブンドが混乱していることにあらわれている。このことは武装蜂起の明確な必要性の指標である(注2)と、レーニンの言葉で「蜂起」を位置付けたその事が、実はレーニンの意志とはまったく別次元のものであるという事を、もしその「レーニン」をもう一度よくくり読めば、いまでも驚くはずである。「蜂起が成功をおさめるためには、それは、陰謀や政党内に依拠するのではなく、先進的階級に依拠しなければならぬ。これが第一である。蜂起は、人民の革命的高揚に依拠しなければならぬ。これが第二である(注3)とまず、第一、第二の基盤を明確にした後に、こう述べているのである。「蜂起は、成長しつつある革命の歴史のうちで、人民の前衛の隊列がもっとも大きくなり、敵の隊列と弱く中途半端で、決断な革命の味方の隊列のうちで動揺がもっとも強まるような、転換点に依拠しなければならぬ。これが、第三である(注4)これを「わけがと誤謬が「小ブル主義」

「わからなくなる時」とであつただけにしてしまふならば、そこに、またや「小ブル的」合理化を見なければならぬのだ。また「小ブル」に依拠していたから、あまりに正しすぎる答を出すのも、なぜ我々が「小ブル」に依拠していたのかを把握する事なり、形式主義的なもの移りてしまかなく、再度同じ誤りに陥らざるを得ないだろう。はたして、今まで、その人々が「小ブル」に依拠するとしていたのだからか、いやそうでもない。「プロレタリア」に依拠しようと呼んできたはずである。その人々が、なぜに「小ブル」的であったのか、その事こそが問題である。この事を抜きに何を語るうとも、それは単なるおしゃべりにすぎない。レーニンに忠実であるという事である。それは、十月八日の次の文章でも同じ状況であり、そして、その中で、マルクスの言葉を借りて説明する。「蜂起を開始した革命をプロレタリアートと語る人々は、まず、その運動が依拠する基盤を明確にする必要がある。全ゆる流れは、その立脚した基盤と無関係ではない。「小ブル」的の立脚した基盤は、その上層プロレタリアートから下層プロレタリアートの没落への自然発生的反発が、この小ブル急進主義運動の登場の基盤であり、同時に意識に於ける小ブル主義がその階層的没落の中で、益々、プロレタリアートの中に広がり、そのものが、小ブル的な運動として変質してきているのである。この小ブルのプロレタリア化の

「プロ」に依拠すると、あまりに正しすぎる答を出すのも、なぜ我々が「小ブル」に依拠していたのかを把握する事なり、形式主義的なもの移りてしまかなく、再度同じ誤りに陥らざるを得ないだろう。はたして、今まで、その人々が「小ブル」に依拠するとしていたのだからか、いやそうでもない。「プロレタリア」に依拠しようと呼んできたはずである。その人々が、なぜに「小ブル」的であったのか、その事こそが問題である。この事を抜きに何を語るうとも、それは単なるおしゃべりにすぎない。レーニンに忠実であるという事である。それは、十月八日の次の文章でも同じ状況であり、そして、その中で、マルクスの言葉を借りて説明する。「蜂起を開始した革命をプロレタリアートと語る人々は、まず、その運動が依拠する基盤を明確にする必要がある。全ゆる流れは、その立脚した基盤と無関係ではない。「小ブル」的の立脚した基盤は、その上層プロレタリアートから下層プロレタリアートの没落への自然発生的反発が、この小ブル急進主義運動の登場の基盤であり、同時に意識に於ける小ブル主義がその階層的没落の中で、益々、プロレタリアートの中に広がり、そのものが、小ブル的な運動として変質してきているのである。この小ブルのプロレタリア化の

「プロ」に依拠すると、あまりに正しすぎる答を出すのも、なぜ我々が「小ブル」に依拠していたのかを把握する事なり、形式主義的なもの移りてしまかなく、再度同じ誤りに陥らざるを得ないだろう。はたして、今まで、その人々が「小ブル」に依拠するとしていたのだからか、いやそうでもない。「プロレタリア」に依拠しようと呼んできたはずである。その人々が、なぜに「小ブル」的であったのか、その事こそが問題である。この事を抜きに何を語るうとも、それは単なるおしゃべりにすぎない。レーニンに忠実であるという事である。それは、十月八日の次の文章でも同じ状況であり、そして、その中で、マルクスの言葉を借りて説明する。「蜂起を開始した革命をプロレタリアートと語る人々は、まず、その運動が依拠する基盤を明確にする必要がある。全ゆる流れは、その立脚した基盤と無関係ではない。「小ブル」的の立脚した基盤は、その上層プロレタリアートから下層プロレタリアートの没落への自然発生的反発が、この小ブル急進主義運動の登場の基盤であり、同時に意識に於ける小ブル主義がその階層的没落の中で、益々、プロレタリアートの中に広がり、そのものが、小ブル的な運動として変質してきているのである。この小ブルのプロレタリア化の

第一部 今日に於ける小ブル急進主義の発生根拠

まず、我々が第一に気付くのは、今日の小ブル急進主義運動を任せている人々が、いわゆる階級的に言う明確な小ブル、すなわち、商工自営業者、農民の生産手段の所有者ではなく、学生、知識人を中心とする階級的未分化な中で階層化であるという事である。この事が、実はプロレタリア運動を小ブル的根拠のひとつである。なぜなら、学生、知識人の未分化な状況は、高度に発展し、益々独占形態を強め、階級的な全ゆる階層のプロレタリアート化を進める帝國主義再編の中にあつて、この事を抜きに何を語るうとも、それは単なるおしゃべりにすぎない。レーニンに忠実であるという事である。それは、十月八日の次の文章でも同じ状況であり、そして、その中で、マルクスの言葉を借りて説明する。「蜂起を開始した革命をプロレタリアートと語る人々は、まず、その運動が依拠する基盤を明確にする必要がある。全ゆる流れは、その立脚した基盤と無関係ではない。「小ブル」的の立脚した基盤は、その上層プロレタリアートから下層プロレタリアートの没落への自然発生的反発が、この小ブル急進主義運動の登場の基盤であり、同時に意識に於ける小ブル主義がその階層的没落の中で、益々、プロレタリアートの中に広がり、そのものが、小ブル的な運動として変質してきているのである。この小ブルのプロレタリア化の

第一章 小ブル急進主義の社会的背景

共産主義者同盟赤軍派 政治理論機関誌

☆ ☆ ☆

(以下次号に掲載)

「赤軍」

総集号

内容 「赤軍1」他

定価 2000円(残部僅少)

- ☆ バック・ナンバー
- ☆ 全国政治新聞
- 「赤軍」 9号 74・9・4 (復刊号) 1,000円
- ☆ 赤軍再建宣言 革命運動行動—建軍革命戦争の組織問題 他 (残部僅少)
- 「赤軍」 10号 74・9・20 発行 1,000円
- ☆ 革命軍—赤軍建設アピール 現下の朗解情勢 綱領草案 他
- 「赤軍」 11号 74・10・20 発行 1,500円
- ☆ 10・21 アップル 朴一日帝の謀略「赤軍」キャンペーンを暴露—粉砕せよ 10・31 狭山決戦、結審判決に総決起せよ 他
- ☆ 「赤軍」編集号と併読を